

歴史

—平城宮跡南門の復原

平城宮跡の復原整備の概要

奈良県にある平城宮跡歴史公園では、特別史跡である平城宮跡の歴史的価値・魅力向上に向けた様々な整備が行われています。現在は、第一次大極殿正殿に引き続き「南門」の復原整備を行っており、東楼、西楼、回廊が順次整備される予定です。



◀ 平城宮跡南門の完成模型

南門の復原整備

2017年より工事が始まった南門は、大極殿院の正面入口となる建造物です。復原整備では、伝統的な材料、工法を用いることを基本方針としています。

伝統的工法（木工事）

木工事では、伝統的な工法として、古代の大工道具を使用しています。右の写真のように手斧（ちょうな）や槍鉋（やりがんな）も用いて各部材の仕上げを行っています。



伝統的工法（瓦製作）

木工事の他にも様々な特徴があります。瓦製作もその一つです。平瓦には、凹面に「布目」と呼ばれる古代の瓦に残っていた布の模様を意図的に再現しています。凸面には「縄目」と呼ばれる縄をまいた棒状の道具で粘土を叩き締めた痕跡を再現しています。



- ▲実際に使用している道具
- ◀ 槍鉋を用いて部材を仕上げる様子
- ▼ 麻の布目を再現した平瓦



所在地	奈良県奈良市佐紀町地先
敷地面積	175,444㎡
建築面積	450㎡（素屋根 2,144㎡）
延べ床面積	196㎡
構造	木造 五間三戸二重門